かぜ

研修時の事務局の様子

成年後見人材育成研修

専門職後見人としての社会福祉士が身につけるべき知識・技術を習得することを目的とした研修が開催され、受講者と主催者それぞれから感想を教えていただきました。

成年後見人材育成研修を受講して

齋藤　博　隆

私が研修を受講した理由は、学生時代からの友人で、一緒に基礎研修を修了した仲間からの誘いでした。しっかりとした知識を学び、後見人として支援対象者へのお手伝いが出来たらと思い、受講を決意しました。

レポート課題は、日々の業務に追われ、提出がギリギリになることも…。それでも課題作成を通して、様々なことを得る機会となりました。また、講師の先生、ぱあとなあ秋田会員の方々からの講話や実践報告、受講生同士での演習を通して、更に学びを深め、新たな気付きを得ることができました。講師の先生より、「被後見人は後見人に人生を委ねることになる。本人の利益になるようにしていく」という言葉を頂きました。この言葉に、後見人の役割の重大さを感じる事が出来ました。研修で学んだことを、今後の後見活動に活かしていきたいと思います。

研修に携わっていただいた事務局や講師の方々、受講生の皆さんに感謝申し上げます。

＜発行＞
一般社団法人
秋田県社会福祉士会
＜発行責任者＞　和田　士郎
＜事務局＞
秋田市旭北栄町１－５
（秋田県社会福祉会館内）
＜ＴＥＬ＞
018－896－7881
＜ＦＡＸ＞
018－896－7882
＜ＭＡＩＬ＞
akitaken-csw@flute.ocn.ne.jp
＜ＵＲＬ＞
http://www.akita-csw.org/
編集　広報委員会

・成年後見人材育成研修
・実習指導について
・ペットの役割
・職場紹介
・新規会員紹介
・ペンリレー

社会福祉士会名簿登録研修を終えて

ぱあとなあ秋田　高　橋　弘　樹

「弘樹、何やってら落ちだど！」７年前の成年後見人養成研修の最終試験後、不合格の知らせを小原秀和講師より受けたことを思い出します。（試験後レポートを作成、追試で合格。）

後見活動の右も左も分からなかった私も現在では、後見３名と補助１名を受任し、活動しております。そのご縁から後見計画策定演習を承ることになりました。今回、受講生の皆さんと一緒に学んだ内容は、事例を通して財産目録と収支計画書を作成し１年間の活動事務を行うといった内容でした。

研修を振り返ると受講生の「熱意がすごい」の一言です。基礎研修の過程Ⅰ～Ⅲを終了してきているので「知識」がしっかりしており、皆さんどの担当地区からもドラフト１位で採用される即戦力間違いなしです。

研修を修了した皆さんはこれから実務に就かれるわけですが、皆さんの関わりによってその方の暮らしが良くもなれば、悪くもなります。成年後見人等は、成年 被後見人等がどのような暮らしを送っていても暮らしが「幸せ」と感じることができるように、身上監護・財産管理を行い本人の「最善の利益」を追求しなければなりません。その為には、知識も大切ですがマインド（思いやるこころ）がとても重要となってきます。

ある有名な著書に、『立派な支援者になる前に、どうぞ感じの良い支援者になって下さい』という言葉がありました。まさしく、私達ソーシャルワーカーが望まれるべき姿。知識を振りかざすだけでなく、多少要領が悪くても仕事が遅くとも、人当たりが良くてその人がいるだけで何となく空気が和らぐ存在…。受講生の皆さんはこれから様々な実務を踏んでいくわけですが、その言葉を頭の片隅に入れて支援にあたって頂ければと思います。今後は、活動を通して「幸せ」を追求する同志となります。互いに切磋琢磨して後見活動とともに「ぱあとなあ秋田」を盛り上げていきましょう！受講生の皆さん長い間研修お疲れさまでした。

実習指導

社会福祉士養成カリキュラムにおいては、ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識と技術を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実習指導があります。今回は実習指導者として学生へ指導している２名より指導時に大切にしていることについて教えていただきました。

【人】とのかかわりを大切にする実習指導

木　内　麻衣子

今年度、「社会福祉援助技術実習」の実習指導を担当しました。コロナ禍となってから初めての実習指導であり地域の感染流行が不安定な中で最大限の感染予防対策を行い、実習生が体調不良なく無事に予定期間の実習を終えることができ、安堵しています。

私の勤務している法人では老健の他、特養やリハビリ特化型通所介護等の事業も運営しています。実習指導にあたり工夫したところは、様々な施設種別（業務）で活躍している社会福祉士の役割や専門性を学んでいただけるよう実習日程を立案しました。また、老健が力を入れている在宅復帰支援に触れていただき、一人のご利用者様に対する相談援助過程を通

して、多くの専門職種や事業所内外の関係者が連携して支援しているということを体感していただけるよう努めました。

私が相談援助職として働く中で、一番の財産は今まで出会えた全ての「人」だと感じています。私自身まだまだ経験が少なく、実習では専門性の高い知識を伝えられている自信はありませんが、できるだけ多くの「人」とのかかわりの中から、実習生には自分なりの理想とする社会福祉士像を描いていってほしいと願っています。

社会福祉士実習指導について

小野　真美

「ソーシャルワーカーとは、何の仕事をする人ですか？」いきなりの質問に、皆さんならどう回答するでしょうか。自分の言葉で納得した答えを紡ぎ出すまで、少し時間がかかるかもしれません。私が実習生を受入れて良かったと思える点は、まさにここで、自分の仕事について言語化する機会を与えられたことです。

「社会福祉協議会とは、何をするところですか？」、「この事業の目的は何ですか？」、「今日クライエントと面接するねらいは何？」、「なぜネットワーク形成が大切なの？」いつしか質問は、実際の実習生からだけでなく、自分の中に「なぜ」と問いかける自分が生まれました。

ソーシャルワーカーは様々な事業、活動を行う反面、何をしているのか外部に伝わりにくい面もあります。実習生からの視点に、どう言語化して伝えるかは、地域や社会にソーシャルワーカーをどう理解していただくか、という事に活かせると思います。（ご縁があれば一緒にお仕事する機会に恵まれたりもします。）実習指導で大切にしていることは、ソーシャルワークの面白さや深みを感じてもらいたい、ということです。生きていれば個人と環境の接点に摩擦が生じるのは誰にでもあることで、実習生自身も、悩みや生きづらさを感じているかもしれません。ソーシャルワーカーの仕事をしていると、人間関係の大変さ、複雑さ、温かさなど様々な面に触れることがあります。それに対し、対人援助という技術をもって介入するのは、独特の立ち位置です。クライエントに寄り添い、摩擦が起こった事実は変えられなくても、事実をどう捉えて今後を生活するか、リフレーミングすることで、不思議と自分も前向きに生きられるような気持ちになり、救われることもあります。

ペットの役割

様々な事柄が多様化する今、ペットの在り方も変化してきているようです。日頃の業務でそう感じたことについて紹介します。

くらしとペット

伊藤　誠吾

最近、家族構成を聞くとペットも含める家族もいると聞きました。実際に統計を見てみると、ペットの数は、昔とあまり変わらないそうですが、ペットにかけるお金は増えてきているそうです。それだけペットを家族のように愛おしむ人が増えてきているといえます。

私が担当したひとり暮らしの方でネコを飼っている方がいました。聞くと、都内の団地に夫婦と一緒に住んでいたころから飼っていたネコだといいます。いつもお酒を飲んで、自分のことをあまり話さない方でしたが、ネコの話題をしていくと、ポツポツと夫婦の思い出や楽しかったことを語ってくれました。そんな

ある日ネコが亡くなり、訪問したヘルパーさんからその方が寂しそうにしていると話がありました。夫婦の思い出や私たちが知らない色々な思いがつまった、かけがえのない存在だったんだなと思いました。我々ソーシャルワーカーのかかわりは社会背景とともにあります。現代のペット事情に合わせたかかわりが求められているのではないでしょうか。ちなみに私は、訪問した時に名前を聞くようにしています。

職場紹介

今回、身元保証事業を行う松本氏、老健で働く高橋氏、地域包括支援センターで働く菊池氏へ依頼し、それぞれの仕事の内容や役割等について紹介いただきました。

社会資源の開発について

企業組合
ほっと代表理事
松　本　慶　一

弊社が創業したのは、２０００年10月。前理事が家庭的な雰囲気を大切にしたアットホームなデイサービスを運営したいという思いから立ち上がった。それはちょうど介護保険がスタートした時期に重なる。お客様から求められるニーズに耳を傾け、高齢者世帯などに対して弁当の提供や、理学療法士によるリハビリの提供をいち早く取り組んできた。

先代の思いを引き継ぎ、「社会的なニーズに向き合い新しいサービスの創造」を目指し２０２０年４月に事業承継という形で会社を引き継いだ。主軸に置いている事業は高齢者支援である介護保険事業だが、地域包括ケアシステムにおいて横断的な支援が可能となるよう、障がい者支援も行っている。

高齢者支援、障がい者支援を行っていると、身元保証の相談や、財産管理の相談を受ける事がある。成年後見制度を説明する事もあったが、経済的な理由や申し立て人など様々な課題から、制度にトライする事が難しい事もあった。由利本荘、にかほ圏域では事業者が居なかった民間の生活サポート事業（身元保証、財産管理）を行うことにより、総合的な支援者になることが出来ると考え、現在に至る。これからも地域課題を見つめ、提供するサービスが社会資源の１つとして必要とされることが弊社のパーパスであると信じ事業に取り組んでいきたいと考えている。

老人保健施設の社会福祉士の仕事について

介護老人保健施設
杏授苑
支援相談部長
髙　橋　雄　介

私は支援相談員として勤務している為、その業務について紹介します。大きく分けると入退所に関わる相談業務、利用者様や御家族様の苦情や相談の対応業務、受診やショートステイの送迎業務、その他の業務となります。その中でも在宅復帰に向けた業務の大まかな流れについて説明したいと思います。

入所相談を受けて順番が巡ってきた際に面接と入所前訪問指導に伺い、入所後は現在面会制限もある為、定期的に動画等で御家族様と居宅介護支援専門員へ情報提供し、在宅復帰が可能となった際には、居宅介護支援専門員に来苑頂き、各

職種からの情報提供と退所前連携情報提供書の作成、また、退所前の訪問指導に居宅介護支援専門員等と伺い、指導記録の作成、退所後は1ヶ月以内に居宅に再度訪問しての状態確認と指導・アドバイス、介護支援専門員への情報提供、という形でスムーズな在宅復帰に繋がる様業務を行っています。

今後も1人でも多くの方が在宅復帰出来る様支援していきたいと思います。

能代市南地域包括支援センターについて

能代市南地域包括支援センター
菊池　忠豪

私の働く能代市南地域包括支援センターは、平成30年度から能代市の委託を受けて能代市山本郡医師会が運営しています。能代市南部が担当地域となり、近所付き合いが密な農村的地域や集合住宅のある市街地など幅広い地域特性があります。

当センターでは高齢者に関する様々な相談をお受けしていますが、高齢者だけでなく、子や孫世代も含めた関わりが必要なこともあり、複雑で複合的な相談が多くなっているように感じます。こういった相談に対応していくためには多機関の方々との連携体制を、地域の実情に合わせて整備していく必要があります。

多機関連携の重層的な支援体制を地域で整備するために、社会福祉法改正により重層的支援体制整備事業が創設されました。能代市でも実施計画を定め体制整備が進められています。まだまだ始まったばかりの事業ではありますが、着々と体制整備に向け各機関の連携が始まっています。

当センターも地域の皆様や関係機関の方々に頼られるセンターを目指し、日々頑張っています。

新規会員紹介

新たに社会福祉士会の仲間となった新規会員を紹介します。

大山　怜史

私は、（社福）能代市社会福祉協議会介護福祉課養護老人ホーム松籟荘で支援員として勤務しています。

秋田県社会福祉士会への入会のきっかけは同じ職場で先輩社会福祉士である銭谷慎太郎氏からの紹介です。

社会福祉士を取得したものの1年間を過ごしていました。そんな時に入会を勧められたことをきっかけに自己研鑽の機会と考え、この度基礎研修Ⅰの受講に至っています。

基礎研修Ⅰでは、改めて社会福祉士としての役割についてや専門性について考えるきっかけになりました。集合研修では、オンライン研修となっていたためあまり他の受講者と交流が出来なかったことが残念でした。

基礎研修を機会にこれからもっと自己研鑽を積んでいきたいと思っているのでよろしくお願いします。

ペンリレー

自立援助ホームけやき　ホーム長　石原典子

自立援助ホームけやきのホーム長をしております石原典子と申します。

この度は、基礎研修と成年後見人養成研修を同時期に受講した奈良田さとみさんから、このバトンを受け取りました。基礎研修を修了してから、すでに7年が経ったのに、研修のグループワークが思い出されるようです。あの頃はまだ、今のようにオンラインはなく、すべて集合研修でしたから、県外受講生や遠方から通っていた方もおられました。職種や分野、経験年数などにとらわれない学びと仲間作りが、基礎研修の魅力だと思います。当時、課題の内容を相談しあったりしたことも、楽しいお酒で親睦を深めたことも、本当にいい思い出です。その後も私は基礎研修のスタッフとして、微力ながらも関わらせていただいておりますが、毎回受講生の皆さんの意欲に頭が下がりっぱなしです。

私自身は20代～30代は高齢者福祉で介護や相談業務をしてきましたが、ここ数年は社会的弱者と言われる方々へのご支援をしてきました。行先が無く誰にも頼れない状況、障がいを持つ生きづらさなど、ご自身では解決できない壁がある方もおられ、自分が生きてくる中では見てこなかったところも、現実感を持って受け止めることが多くありました。

この経験も私を後押ししてか、昨年から私は自立援助ホームに入職し、15歳～20歳（22歳）の行先ない児童の支援に従事しています。なので、今は老体に鞭を打って宿直業務を行っています。私自身はまだまだ学ぶことばかりですが、将来への楽しみはたくさんあります。今後、退所した方が「金欠だからご飯食べに行くわ」って、自分の家みたいに帰れるようなホームを目指していますし、程よい距離でつながるということを大事にできたらなと思っています。

次は、いつも優しい笑顔の能代市南地域包括支援センターの菊池忠豪さんにバトンを渡します。最後までお付き合いいただきありがとうございました。

とあるホームの猫です。児童も職員も癒されています。

編集後記

桜が咲く季節になり、新たな環境で日々を過ごされている方も多いのではないでしょうか。長かったコロナ禍においても5月にはインフルエンザと同等の分類に変化予定とのことから今年度は様々なことにおいて動きが出てくる1年になると思います。

我が家では、長男が小学生になりました。私が基礎研修Ⅲを受講していた年に生まれた子です。基礎研修を修了してからは新たに学ぶ機会をつくらずにのんびりと過ごしていましたが、私もレベルアップできるよう今年度は学びの場に積極的に参加したいなと思います。